

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100021		
法人名	スクー 株式会社		
事業所名	スマートホーム・パティオ		
所在地	〒026-0034 釜石市小佐野町2丁目3番39号		
自己評価作成日	令和2年8月6日	評価結果市町村受理日	令和2年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>慢性的な人材不足のため、本年度から併設の小規模多機能型を休止しております。残った利用者と職員でぎりぎりどうにか事業を運営し、皆で協力し合い、一人ひとりが頑張っているところです。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は住宅地であり、市の支所や図書館、病院、小・中学校、スーパーなど様々な施設がある。令和2年春先からコロナ禍にあって、特に外出支援が思うようにできない状況であり苦労しているが、理念である「笑顔と思いやり」を実践する介護を心掛けている。市街地にあるため、事業所の駐車場を地域の方の利用に供したり、近くの保育所の一時避難所として提供したりと、地域との連携や交流を意識した運営にも努めている。職員の意見を積極的に引き出して運営に反映していく姿勢も評価できる事柄であり、職員の資質向上や職場環境の向上に注力している。避難訓練では、系列のグループホームとの連携や、同社内のタクシー運転手の助力も可能であるなどの強みを有しており、実践的な訓練も予定されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年8月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は立ち上げ時に職員皆で作り上げ、毎朝のミーティングでの呼称とホール掲示により、共有しながら実践につなげている。	「笑顔と思いやりでみんなの中に和」をホームの理念とし、ホールに掲示するとともに、毎朝のミーティングでは、管理者から理念の中から一言を話して、職員間の意識の共有化を図っている。利用者の笑顔を引き出し、和でまとまる職場環境づくりを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会会員となっている。道路整備に伴う近隣住宅の解体、移転の際は駐車場を開放したり、近隣保育園の消防訓練時には避難場所に利用されている。	町内会に参加しており、ホームの駐車場は地域の方々の利用にも供している。近所の保育所の避難訓練の際には、ホームが園児たちの一時避難場所として利用されている。近所の方には、ホーム周辺の草刈をして頂いている。コロナ過で休んでいるが、2か月毎に来訪している地域の大正琴ボランティアは、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の見学来所があり、また運営推進会議を通じて、認知症介護支援の実際を発信し、理解の一助となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設小規模多機能型と合同開催し、当会議活用の小規模外部評価において、当事業も合せて現状理解を得てご意見頂き、サービス向上に生かしている。	町内会長や民生委員のほか交番の所長も参加し、バランスの良い委員構成となっている。会議では利用者情報や行事報告、ヒヤリハットの説明、外部評価の報告等があり、委員からは地域の話題なども出されている。コロナ対策のため、5月以降は未開催となり残念に感じている。	運営推進会議の開催については、書面会議という形で、資料を委員に送付して意見等を伺うことも可能と思われるので、工夫されるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当課へのほぼ毎週の事務連絡や運営推進会議への参加も頂いて、指導・助言を得ている。	市の地域包括支援センターでは、運営推進会議に毎回参加し、ホームの状況を良く理解して頂いている。また、市福祉課には、文書のやり取りをする連絡ボックスもあり、しばしば訪問し担当者とも顔を合わせている。地域の介護関係者が顔を合わせる地域ケア会議にも参加し、連携を図っている。	

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書におけるサービス内容にて、身体拘束を行わない旨具体的に盛っており、玄関も日中は解錠している。	運営会社としての身体拘束廃止指針は作成済みあり、委員会は各事業所の管理者が参加して2か月毎に開催し、ホーム内の研修も行っている。夜間のみ玄関を施錠し、転倒防止のベッドセンサーは、家族の了解を得て2人が使用している。スピーチロックについても職員間で注意し合い、改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の区分、定義や事例を学び、見過ごすことのないように留意しており、職場研修でも毎年取り組んできた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	独居等であった利用者には普段から必要性の検討に留意し、職場研修でも取り組んできた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点の解消には必要な分時間をかけて、またご理解頂けなければ改めて何度も説明のうえ、納得頂いてから契約であったり改定の同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の連絡、来訪・面会を通じて意見・要望を承り、職員間で話し合いながら施設運営に反映させている。	多くの利用者が意見や希望を自ら話せる状況にあり、それを職員は聴き取り、食べたいものの希望等に応えるようにしている。家族からは面会での来訪時にお話を伺うが、食事やかかりつけ医の希望、理美容の指定などの話がある。家族には毎月のお便りで利用者の様子をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者参加の日々の申し送りやミーティング、月例会議等において職員は率直な意見・提案を述べる機会があり、反映させている。	管理者も参加する毎朝のミーティングや月1回の職員会議において、職員から意見等が出されている。職員からはシフト時間や更新車両等についての意見が出され、改善に活かした例がある。管理者との個人面談は、定期的ではないものの、管理者が声をかけて随時行われている。	

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格・勤続年数に応じた手当支給・昇給等就業規則や給与規定に沿った労務管理に努め、希望休日の受け付け等条件・環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等参加へのシフトの優先配慮、無資格者に対しては受講料負担での実務者研修受講等スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利用者の受入れや移管等での連携による交流を介して、触発・啓蒙されている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の自宅であったり病院や施設での様子を伺いに複数回、赴く職員も複数名訪問のうえ要望等に耳を傾け、チームケアの安心感を事前に創出するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階でサービス内容をできるだけ分かり易く説明し、見学・面会も重ねて頂いており、また家庭的な雰囲気から相談しやすい環境を醸成するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入後も前任ケアマネや入所前の利用サービス事業所等と情報交換に努め、現行サービスの是非やニーズの検討を繰り返している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとり出来ることやその人らしい個性を発揮して頂き、共同生活の時間の経過も味方にして、互いに理解し、支え合えるよう支援している。対峙する関係とならないようユニフォームは作っていない。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の連絡・相談を介して共に支援方法を考え、外出や通院の支援も協働できる関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の来訪・面会者も歓迎し、馴染みの美容店利用等も支援している。	入居前に住んでいた場所の周辺をドライブして廻り、災害からの復興の様子を見てもらうことがある。馴染みの美容室に通う方がいる他、多くの利用者は訪問理容を馴染みとしている。家族が面会時に馴染みのラーメン店に連れて行く方もいる。ご近所の知人や茶道のお弟子さんが面会で来所する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	迷惑行為が多い利用者も分け隔てなく、利用者同士がもめてしまうことも恐れず、互いに理解や認め合える雰囲気醸成に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他機関移管者については、環境の変化をできるだけ少なくするよう情報提供惜まず、事業所間協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事や理美容の希望をきいたり、洗濯や台所仕事等望まれるときに手伝って頂いたりして。	思いや希望については、入居時にアセスメントして確認するほか、日常のケアを通じて把握するよう心掛けている。多くの利用者が言葉で思いや希望を表すことができるが、重度で話せない方でも仕草や表情、長い時間をかけた関わりのなかでの利用者理解をベースに、職員が読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報にとらわれず、普段の会話から情報収集するほか、家族を通じてこれまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフノート等を活用しながら、日々の変化の情報共有し、食事メニューや福祉用具活用等にも細やかな対応を心掛けている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや家族との連絡・相談等を基に介護計画を作成している。また利用者の状態に合わせて勤務シフトも臨機に対応している。	介護プランは管理者が計画作成担当者となっている。プラン原案を職員カンファレンスにおいて話し合い、家族の了解を得て決定している。計画の見直しは、6か月～1年ごとに行っており、職員カンファレンスでモニタリングを行い、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、ミーティング等から情報を管理、共有してケアの改善を目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設小規模多機能型施設を活用した、例えばベッドでは転落危険される方の小規模用布団敷き畳部屋の利用等ニーズに対応して柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔からのかかりつけ医を変更することなく必要があれば往診頂いたりし、また家族以外の例えばご近所付き合い等の方々にも来所面会頂いていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医とのつながりをそのまま尊重し、それ以外の医療機関についても本人希望や症状に合わせて家族連絡・調整のうえ受診適っている。	多くの利用者が、市内にある入居前からの病院をかかりつけ医として継続している。通院は家族の対応を基本としているが、半数以上の利用者はホームの職員が通院に付き添っている。職員が通院介助した場合には、検査結果等を家族に報告するなど、受診結果の共有をしている。日常の健康管理等は、運営会社に所属する看護師が定期に来訪して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護職と共に利用者ケアに当たって情報共有し、通院介助を介して主治医、薬局等関係医療機関との連携も図っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供、本人の見舞いのほか医師、看護師やMSW等と面談、家族と共に今後の方針等相談するなど連携・協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医先等医療機関と相談しながら、本人・家族への説明等、また重度化、終末期及び看取り等についての職員研修を図り、布石としている。	重度化した場合の対応方針等については、入居時に説明のうえ了解を得ている。利用者の状況変化に応じ話し合ったり、入退院時にはその都度話し合いをしている。現状では、看取り対応ができる状態であっても、家族の意向で病院に転院するケースがあり、まだ看取りの経験はない。市内には看取りに協力的な医療機関もあり、事業所としての準備は整えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な消防避難訓練のほか、職場における非常緊急時の対応等研修会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣施設との協力関係を築いており、また消防署が向かい隣であったこともあり、施設現況の理解を得て職員一同分かり易い指導を頂いている。	市のハザードマップでは浸水想定地域となっており、大雨災害の際は、近隣の県職員公舎や系列のグループホームへの避難を想定している。火災時には2階からの避難が課題であり、今秋に薄暮時での夜間想定避難訓練を行いたいとしている。運営会社の強みとして、タクシー運転手の協力も見込まれる。日常的に真空パックの肉や魚が調理材料として保管されており、災害備蓄品としても活用できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「笑顔と思いやり」で接遇し、認知症状によるその人の世界、言動を理解するように努め、やにわに否定することをせず、人格の尊重に心がけている。	利用者との会話は、丁寧な言葉遣いを基本としながら、状況により本人に合わせている。トイレ誘導の際には、さりげない声掛けを工夫している。着替えの際にはなるべく居室内で1人でできるよう配慮したり、同性介助を希望する場合には意向に沿って対応している。職員の話の中で不適切な言葉があるような場合には、管理者がその場で注意して、理解と自覚を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を話しやすい雰囲気作りに努め、行事等への参加、着衣選び、食べたいメニュー等自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理な強要となることなく、その日の体調や気持ちの状況に合わせて入浴機会や食事時間・場所、刻み具合等柔軟に対応し、その人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や理美容、男性であれば髭剃りの仕方等その人らしくできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかゆ・刻み・トロミ対応や箸かスプーンか、かかる時間等も本人のその時々ペースに合わせて、職員も一緒に食事をとっている。	献立は、調理師資格を有する職員が担当し、利用者の好みも考慮しながら作成している。利用者の食べる力に応じて、食事形態を刻みにしたり、ご飯をお粥で提供したり、汁物にはトロミを用いたりしている。利用者の中で1人の方は配膳や下膳などを手伝ってくれ、テーブル拭きを手伝う方もいる。敬老会では好みのお寿司、お正月などにも行事食を提供し楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が順次に栄養・調理研修に参加し、健康管理を基として一人ひとりの状態に応じた食事、また効率よく水分補給できるよう好みに応じた飲み物の提供をしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診あって義歯等に不具合あれば対応頂いている。また食後の口腔ケアを習慣化しており、口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェック表を基に必要な方へは時間毎のトイレ誘導、また個別の尿・便意サインを見逃さないようにしてトイレでの排泄支援をすすめている。	布パンツで自立の方が1人、リハビリパンツ使用が5人、オムツ使用が2人となっている。24時間の排泄チェック表を活用して、誘導のタイミングを判断したり、利用者の尿意・便意のサインを捉え、適時の声掛けや誘導を行い排泄介助をしている。失禁時などには、特に優しい声掛けやケアを心掛け、利用者が落ち込まないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	離床・運動機会を多くし、その人の便秘解消の経験・工夫も尊重して食べ物や飲み物も自主的に摂って頂けるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に消極的な方が意外に多く、個別に工夫して誘ったり、排泄等の汚染時に臨機に入浴対応している。	週2回の入浴を基本としている。浴槽は側面が開閉する個浴の特殊浴槽となっている。同性介助の希望者はいないが、入浴を嫌がる方はおり、いろいろ工夫して対応している。季節を感じる菖蒲湯等を楽しみたいが、特殊浴槽のため難しいものの、職員と1対1となる時間でもあり、会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	震災時に相部屋慣れしたりして、居室よりホールで寝た方が安心される方もいて、その人それぞれの落ち着く場所があり、尊重して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬種をファイル管理し、かかりつけ薬局の日頃の配達や情報交換のうえ主治医の診断に資する服薬支援・確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や掃除、洗い物等日常でその人に合わせた役割を担って頂き、また塗り絵など趣味活動も楽しんで頂いている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人・家族や地域の要望に沿って、散歩や時節の花見、紅葉狩りや盆踊り等またはドライブに出かけたりしていた。	コロナ禍の影響で、ほとんど外出できない状態が続き悩みとなっている。通院のために車で出かけるのが貴重な機会となっている。普段であれば、ホームの周辺に職員や家族と散歩に出掛けたり、お花見や紅葉狩り等で季節のドライブを楽しんでおり、このコロナ禍が落ち着いたら再開していく予定としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の金庫と現金管理表を基に小口で出納管理しているが、家族と買い物に出かけたり、好みを聞いて買い物代行したりその人に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は家族等相手の意向を踏まえながら希望に沿うようにしている。手紙やはがきも届き、読み聞かせ等援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手をさけて自然で落ち着く雰囲気を心掛けているが、入所者の作った絵等を壁に飾ったり、季節感を出す飾りつけをしたりしている。	食堂を兼ねた広く明るいホールには、大型テレビやソファも備え付けられ、エアコンや1階からの床暖房などで空調管理がなされている。利用者は、ホールでテレビを鑑賞したりレクリエーションに取り組んだり、寛いで過ごされている。壁面には、塗り絵の作品や、ひまわりなどの季節感ある飾り付けがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは、テーブルについて皆でゲーム等するもしいしテレビを観るのもよく、また小上がりの畳で昼寝してもいいような作りになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	扉にのぞき窓はなく、個室として閉ざされる。置いて不都合ないものは持ち込み自由で、またアンテナ線を全室に引いてあるのでテレビも持ち込める。	居室には、ベッドとクローゼットが備付けられ、利用者は、衣装ケースやテレビ、イス、テーブル、家族写真などを持ち込んでいる。冷暖房は、ホールのエアコンを利用している。壁面には自分の作品やお気に入りの写真などを飾って居心地良い空間となっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	併設小規模交流スペースへは主にエレベーターを利用するが、階段を運動兼ねて利用するときは、波型手すりが有効活用されて安全を創出している。		